OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students

プロフィール（Profile）

氏名（Name）　中川　陽
所属（School）生命環境科学域　緑地環境科学類
学年（Grade）　４年

留学先（Name of overseas institution）
CY セルジー・パリ大学
留学期間（study abroad period）
2021/9/1~2022/1/31

記入日（Date）2022/3/22

留学レポート Study Abroad Report

【留学の経緯】
　新型コロナウイルスの影響で、日々の行動が制限され、このまま卒業していいのかと自分のしたいことについて考えたときに、自分の考えを広げるきっかけとなったフランスに留学したいと強く思うようになりました。もしかしたらコロナがなければ留学していなかったかもしれないと思うとぞっとします。それぐらい留学は人生を変える大きなきっかけとなりました。新型コロナウイルスの影響で、留学直前まで実際に渡航できるかは分からず、不安な気持ちに何度もなりましたし、本当に留学していいのか、向こうで上手くやっていけるのかと何十回も悩み、諦めかけたこともありました。ある日、国際交流課の方からお話がありますと言われて、あぁやっぱり留学中止か…と思っていたら、応募した奨学金に合格したという知らせでした。国際交流課の方も研究室の先生も応援してくださって、海外の奨学金に合格した自信からも留学への迷いが消えていきました。両親もかなり心配していましたが、やり残したことがないように頑張っておいでと背中を押してくれて、周りの人のおかげで留学を決意することができました。

【留学準備】
　振り返ってみると渡航までは本当に大忙しでした。奨学金の手続きやビザの取得、滞在先の確保等、とにかくやらなければいけないことをこなすのに必死でした。また、留学先では留学に打ち込めるように、渡航の３日前まで研究室で研究内容をまとめていました。コロナの影響で、ビザを取得できたのは渡航１週間前でやっと留学に行けるんだという実感が湧いてきました。また、ちょうど日本でもワクチンパスポートの発給が始まったので、フランス入国後は隔離や PCR 等の検査なしで留学生活をスタートすることができました。本当に運が良かったと思います。出発日には家族だけでなく、友人も見送りに来てくれて、より頑張ろうと決心することができました。国際交流課の方、研究室の先生、家族や友人のおかげで無事に留学に行くことができました。

【大学や学外での生活】
　現地大学の授業を受け、新しい発見が沢山ありました。CY セルジー・パリ大学では、交換留学生として、日本語・英文学科に所属していました。日本語翻訳、英文法、イギリスや日本の歴史、環境の授業を受講していました。えっ海外に行ったのに日本の歴史の授業？と思った方もいると思います。私も授業を受けるまで、いや受けてからもなぜフランスで日本の歴史を学んでいるのだろうと疑問を抱いていました。しかし、授業を受けていくうちに、歴史について知らなかったことがあったことはもとより、授業で出てくる語彙のレベルは高かったのですが日常生活でも頻繁に使用されていて、会話の理解が深まったり、美術館をより楽しめたりと結果的にとても役に立つ授業となりました。翻訳の授業を受けたことで、日本語とフランス語を学ぶ上での難しい部分の違いも体感できました。授業は全面対面授業で、運良く新型コロナウイルスの制限がない形で授業を受けることができました。日本の大学では、講義型の授業が多かったのですが、少人数の授業がほとんどで、日本の大学と異なる形式で戸惑う場面もありました

大学の日本語会話サロンにて。週に 2 回、日本語を学習している生徒と交流するワークショップのチューターをしていました。

が、周りの友人のおかげでなんとか授業についていくことができました。また、みんな積極的に授業に参加していて、与えられたものをこなすのではなく、積極的に自ら学んでいて、自分の意見を発信している姿を見て、貪欲に学ぶ楽しさに改めて気付かされ、手を挙げて発言することも怖くなくなりました！授業以外でも食堂で偶然話しかけてくれた子と休日に出かけたり、授業の合間にお話したりしていました。その友人は留学生だからではなく、現地の学生と同じように会話してくれて、上手く伝えることに集中するのではなく、会話を楽しむことが最も大事だと気付かせてくれました。

学外では、奨学生としての活動で、現地の中学校で日本文化を紹介する機会がありました。授業以外でのフランス語でのプレゼンテーションは初めてだったのでとても緊張しましたが、自国に対する理解も深まり、フランス人中学生との交流という滅多にできない貴重な経験となりました。中学校に日本文化クラブがあったり、図書館には沢山の漫画がったりと、日本文化が浸透していて驚きました。プレゼン以外にも年賀状を書いたり、日本のことわざかるたや折り紙等の日本文化アクティビティを行いました。日本語のことわざをフランス語で説明するのは難しかったですが、同時にフランス語のことわざも知ることができました。体験中、生徒が日本についての質問を沢山してくれて、フランスの中学校生活についてもいっぱい質問できました。

ヴァル・ドワーズ県の中学生との集合写真

かるたに書かれていることわざとひらがなを説明しました。

同じ学科に通っていた日本人の留学生の子とフランスの各都市を一緒に旅したり、時には相談に乗ってもらったりと、異国の地で同じような価値観を持つ人の存在は大きな支えになりました。

言語を習得していくと、次から次へと新しい世界が広がり、コミュニケーション力とは多くの価値観を知り、受け入れることなのだと身を持って感じました。今後もこれらの経験を糧にして、自分の世界を広げていきたいと思います。

【ホームステイ】

セルジーはパリの郊外にあり、治安が良く、自然も沢山あり、生活するのにはとても良い場所でした。ホームステイを選んだのは本当に偶然でした。Studapart というサイトで、料金と大学からの距離でフィルターをかけ、条件に一番合致したところだったからです。選択肢は寮ばかりで、少し不安もありました。ビザも取得できていなかった渡航２週間前にホストマザーに連絡をし、週末にビデオ通話で話せませんか？という連絡が！フランス語もまともに話せず、英語も拙い私に優しく、お部屋やペットを紹介してくれて、ほんの５分の会話で即受け入れてもらえることに。本当に幸運でした。ホストマザーとは毎日、Netflix のドラマや映画を一緒に見たり、週末はフランスやモロッコの料理を一緒に作ったりして、学校外の時間の多くを一緒に過ごしました。そのおかげで、映画やドラマの内容はフランス語音声でほとんど理解できるようになり、フランスやモロッコの家庭料理を作ることもできるようになりました。毎週日曜日には、ホストマザーの友人を家に招待して、ランチを一緒に楽しみました。年齢層が高い人が多く、人生経験が豊かな人たちだからこそ話を聞いていてとても面白かったです。ホストマザーは働きながらも趣味や普段の生活を心の底から楽しんでいて、そのような生き方への憧れが強くなりました。ある日このことを伝えたら、日々の生活を心から楽しんでいる人のことを「Bon vivant」と呼ぶよと教えてくれました。私も「Bon vivant」を目指して、日々の生活を丁寧に自分の世界をもっと楽しんで暮らそうと思いました。日本文化への興味が増したから２年後、日本に行くねと言ってくれた時はとても嬉しかったです。今でもほぼ毎日連絡を取っていて、近況を報告しています。ホームステイのおかげでフランスが恋しいですし、モロッコにも行ってみたくなりました。余談ですが・・・私は、美味しいものを沢山食べたおかげで、体重が 7 キロも増えていました！（１人暮らししたら体重計を買おうと思いました。笑）ホームステイを考えている方、留学を考えている方は食べすぎにお気を付けを。

モロッコの家庭料理
クスクス

クリスマスに作っていただいたローストビーフ

毎日ワンちゃんとお散歩をしたのも素敵な思い出です。

【コロナ関連】

新型コロナウイルスに対する日本とフランスの考え方の違いにも驚きました。渡航直後は、行動規制はなく、授業も当たり前のように対面授業で始まりました。町なかには沢山の検査場が設けられていたり、濃厚接触者となっても検査で陰性となれば普段の生活ができたりとコロナとの共存を感じる機会が非常に多かったです。また、衛生パス（ワクチン接種証明の QR コード）は、出かけたときにレストランや美術館等に入るために必須でした。しかし、私の印象ですがワクチン接種に反対のフランス人は多かったです。ワクチンや政府について友人同士でよくディベートが起こっていたのも印象的です。個人的には、国に従えばいいんじゃないかなあと思いつつ、ひとりひとり反対の意見をしっかり持っていることにも自由の思想を感じました。また、仮に新型コロナウイルスに感染したとしても、友人らに隠すことなく、実はあのときコロナに罹っていたんだと普通に会話で話題になったりと、捉え方が全く異なりました。私も実際にコロナに罹った時に、周りに話すことができたので、1 人で悩まずに済みました。留学へ行く前に最も恐れていたのは、現地でコロナに感染することでしたが、海外で検査をいっぱい受けたり、隔離生活をしたりと滅多にできない経験ができました。

【留学を考えている方へ】

私にとって留学は見えている世界が広がる経験となりました。行きたいと思い、いざ行動に移してみると思いがけない出会いがあったりもします。行動の制限は今後もあるかと思いますが、今の時期だからこそ得られる経験があると思います。ぜひ今しかできないことにチャレンジしてみてください！また、目標を定めて、留学生活の一日一日を大切に楽しんで過ごしてください（＾＾）

【最後に】

留学は、周りの人の助言や励まし、助けがあったからこそ実現でき、かけがえのない経験となりました。今後はこの経験を周囲に還元できるよう留学を考えている方や身の回りの外国人のサポートをしたいです。

国際交流課の皆様、家族、研究室の皆様、留学を応援してくださり本当にありがとうございました。

モン・サン・ミッシェル
11 月のバカンスに友人と！

ストラスブール
クリスマスマーケット
が有名な都市

エギスハイム
フランスの最も美しい村に選ばれた小さな村、
美女と野獣の舞台にもなった場所です。

エッフェル塔
フランスが EU の議長国になり、
エッフェル塔も EU カラーに！

パリの凱旋門ラッピング
芸術家による壮大なラッピングアート
この日、シャンゼリゼ通りは歩行者天国になっていました。